

# 公益社団法人 経済同友会

「学校と経営者の交流活動推進委員会」主催

## 第11回教育フォーラム

「～勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？～」

### 参加のご案内

【3月18日（土）会場は東京駅近辺を予定】

公益社団法人経済同友会（代表幹事・小林喜光 三菱ケミカルホールディングス取締役会長 会員約1400名）は、終戦直後の1946年、日本経済の堅実な再建のため、有志83名が結集して誕生した経済団体です。企業の経営者が個人の資格で参加し、より良い経済社会の実現や国民生活の充実のための諸課題に率先して取り組んでいます。2016年に創立70周年を迎え、現在、約1400名の企業経営者が活動しています。

経済同友会活動の一つである「学校と経営者の交流活動推進委員会（委員長・日比谷武 富士ゼロックス 顧問）」は、企業経営者が貢献できる具体的な活動として、「活力ある21世紀の日本社会を支えていく人材の育成・教育」のために、主に中学生・高校生を対象とした出張授業や、教員や保護者の方を対象とした研修会等の講師を務めるなど、学校現場との活発な交流活動を展開しています。

こうした活動の一環として、毎年3月に中学生を対象とした『教育フォーラム』を開催しています。本イベントでは、中学生を対象とした企業経営者による講演、および生徒や教員、保護者と企業経営者によるグループ・ディスカッションを実施しています。企業経営者の経験を踏まえ、これからの社会で求められる力と教育のあり方について、意見交換を行いませんか。

本イベントの参加費は無料で、中学生のみならず教員や保護者の方の参加も募集しています。6ページの申込方法をご参照の上、2月17日（金）までに書類をご送付ください。定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

## 教育フォーラムプログラム

日時：2017年3月18日（土）13:00～16:45（受付開始12:20～）  
 会場：会場は東京駅近辺を予定  
 参加費：無料  
 対象：中学1～3年生、中学校の教員、中学生の保護者

### 第1部：基調講演・・・定員150名（13:00～14:25）

講師：志賀俊之 日産自動車 取締役副会長  
 （経済同友会 副代表幹事・資本効率の最適化委員会委員長）



### 第2部：グループ・ディスカッション・・・定員100名（14:35～16:25） 途中にティ・タイムを設けています

生徒グループ テーマ：「勉強するのは何のため？働くってどういうこと？」  
 教員グループ テーマ：「これからの社会で求められる力と教育のあり方」  
 保護者グループ テーマ：「これからの社会で求められる力と教育のあり方」

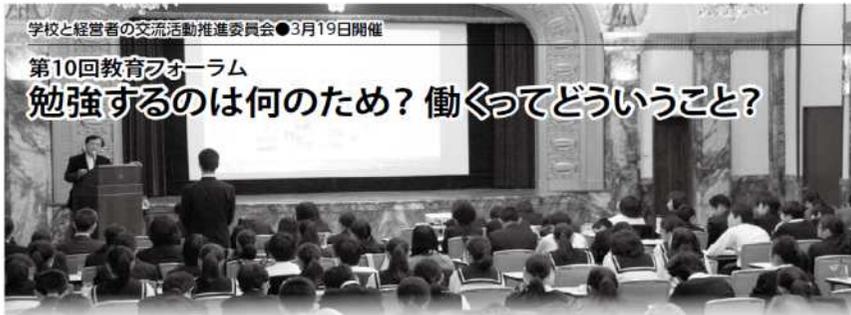


#### 〔講師（予定）・五十音順〕

栗原美津枝	日本政策投資銀行 常勤監査役
昆 政彦	スリーエム ジャパン 取締役副社長執行役員
志賀 俊之	日産自動車 取締役副会長
島田 俊夫	CAC Holdings 取締役会長
鈴木 雅子	ベネフィット・ワン 取締役副社長
高橋 秀行	ステート・ストリート信託銀行 取締役会長
中野祥三郎	キッコマン 取締役常務執行役員
成川 哲夫	新日鉄興和不動産 取締役相談役
林 恭子	グロービス 執行役員
日色 保	ジョンソン・エンド・ジョンソン 取締役社長
日高 信彦	ガートナー ジャパン 取締役社長
日比谷 武	富士ゼロックス 顧問
古内耕太郎	燦ホールディングス 相談役
森田 均	マニユライフ生命保険 代表執行役
山内 千鶴	日本生命保険 執行役員
吉永 達世	つばさエンタテインメント 代表取締役

ほか数名

# ご参考：昨年の『教育フォーラム』の様子です



学校と経営者の交流活動推進委員会 ● 3月19日開催

## 第10回教育フォーラム 勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？

「学校と経営者の交流活動推進委員会」は、働くことの意義と教育のあり方について考える教育フォーラムを開催した。日比谷武委員長は「今回、参加の中学生は過去最高の人数となりました。このような場合は私たち経営者にとっても貴重な機会です。本日参加された中学生、保護者、教員の皆さんにとっても、今後の勉強や指導の参考となるような、有意義な時間にしていただきたい」と述べ、基調講演に続いて行われるグループ・ディスカッションでの活発な議論を求めた。

プログラム (役職は開催当時)	
第1部	基調講演
テーマ:	「これからの社会・これからの世界」
講師:	小林 喜光 代表幹事 (三菱ケミカルホールディングス 取締役会長)
第2部	グループ・ディスカッション
●生徒グループ	テーマ:「勉強するのは何のため？ 働くってどういうこと？」
●教員/保護者グループ	テーマ:「これからの社会で求められる力と教育のあり方」

### 基調講演

## これからの社会・これからの世界

講師：小林 喜光 代表幹事  
三菱ケミカルホールディングス  
取締役会長



### 生きること、生き抜くことが大事

私は皆さんと同じ10代のころから、「自分の存在意義は何なのか」と考え、勉強し、本を読みました。大学4年生になり、そのまま卒業して、みんなと同じように就職して意味があるのかと悩んでいた時、「日本人とユダヤ人」(イザヤ・ベンダサン/山本七平)という本に出会いました。ノーベル賞受賞者の20%以上はユダヤ人といわれていますが、世界の人口比率でいうとたった0.2%しかいません。なぜそのように優秀な民族なのかを知りたくて、博士課程1年の時、イスラエルのヘブライ大学に留学しました。

### 想像もつかない世界に どう対応するか

今、世界は、グローバル化、第4次

産業革命、ソーシャルネットワーク化という大きな三つのうねりに覆われ、われわれが想像もつかない時代が変わろうとしています。

特に2020年代前半には、人工知能(AI)、ロボティクス、ビッグデータの活用などにより第4次産業革命が現実のものとなるといわれています。そのような時代は、モノに代表されるリアルな「重さのある」経済から、ネットに代表されるバーチャルな「重さのない」経済へと変化します。例えば、Uberという世界一のタクシー会社があります。しかし、Uberは一台もタクシーを持っていません。ネット上で、モノやサービスを交換したり、共有することで成立した新しいビジネスモデルを確立しました。

また、仕事や働き方も大きく変化します。あと10～20年で、日本の労働人口の49%がAIやロボットなどで代行可能になるといわれています。皆さんが、社会の中心となって働くころには、今の仕事の半分はなくなっているということです。

このように重さのない経済、今の半

分の仕事なくなる時代を迎え、自分は何を目指し、どう勉強すればいいのかわかる必要があるのです。

### 人類・地球の問題を 解決するために学び、働く

大事なことは、まず「今はフランス革命に匹敵する革命期にある」ということを自覚することです。

人は、革命期にいても、気が付か

ないものです。あらためてこのことを認識して、AIやロボットに勝つにはどうしたらいいのか、人間はどのような仕事をすればよいかを考えながら勉強してほしい。一番重要なことは、人とディベートをして、どのような形で結論を出すのか、自分の頭で考え、理論を組み立てることができるようになることです。

また、成熟した社会での幸福につ

ても考えてください。これまでは、経済が成長すれば、幸福度や快適さも上がると考えられてきました。経済の成長を測る物差しに国内総生産(GDP)があります。しかし、GDPだけで人々の幸福度は測れなくなってきました。

自分の事だけでなく、人類・地球の問題を解決できる人間になれるよう学び、働いてくれることを皆さんに期待しています。



**Q** AIが進化すると人間は何をすればよいのですか。  
**A** 単純労働はやがてAIに取って代わられるでしょう。しかし、人を愛したり思いやりたりする感性はAIにはありません。そうした人間的な資質を活かして、人間はもっとクリエイティブな仕事をやるようになると思います。  
**Q** 社会が大きく変わる中で、どのような人間性が求められるのでしょうか。  
**A** さまざまな分野に進むオールマイティ型、特定の分野に強い特化型、どちらも必要です。自分の得意な方向に進むべきです。

**Q** AIが進化すると人間は何をすればよいのですか。  
**A** 単純労働はやがてAIに取って代わられるでしょう。しかし、人を愛したり思いやりたりする感性はAIにはありません。そうした人間的な資質を活かして、人間はもっとクリエイティブな仕事をやるようになると思います。  
**Q** 今は革命期にあるというお話ですが、そんな時に私たちはどのような勉強をすればよいのか教えてください。

**A** 先生の話をもっと聞き取りたいです。自分なりの考えを持つことが大切です。先生とも議論ができるような自立した人間になることです。  
**Q** 日本は世界の中でどのような役割を果たせばよいのでしょうか。  
**A** 人口や資源エネルギーの分野で、日本は世界の課題を先取りしています。先進的に苦勞をして、それを克服すれば世界のモデルになります。日本にとってピンチはチャンスなのです。

### グループ・ディスカッション

第2部のグループ・ディスカッションでは、生徒・教員・保護者の各グループに分かれ、講師による問題提起とともに、参加者が抱えている課題を共有し、ディスカッションを通じて解決への道筋を見いだしました。



### 参加講師

- 生徒グループ
  - 小野 尊 (ニフコ 顧問)
  - 佐久間 万夫 (Eパートナー 取締役社長)
  - 島田 俊夫 (CAC Holdings 取締役会長)
  - 高橋 秀行 (ステート・ストリート信託銀行 取締役会長)
  - 中島 好策 (アメリカン・エキスプレス・インターナショナル、Inc. 上席副社長)
  - 林 純子 (グロービス 執行役員)
  - 高橋 信雄 (ガートナー ジャパン 取締役社長)
  - 日比谷 武 (富士ゼロックス 顧問)
  - 廣瀬 純雄 (オーエム通商アクト 取締役社長)

- 教員グループ
  - 岡前 雅弘 (大和証券グループ本社 名誉顧問)
  - 成川 哲夫 (新日鉄興和不動産 取締役相談役)
  - 森 隆 (ローランド・ベルガー エグゼクティブアドバイザー)
- 保護者グループ
  - 高坂 龍三 (日本漢字能力検定協会 代表理事 会長)
  - 四方 ゆかり (グラクソ・スミスクライン 取締役)

# 申込方法

## 【お申し込みの流れ】

以下の事項に従って、「参加申込書」(第2部参加の方は「自己紹介シート」を含む)をファックスもしくは郵送にて、2月17日(金)までに本会事務局(右下送付先記載)までご提出ください。

申し込み多数の場合には、抽選とさせていただきます。なお、事前申込みの無い方は、当日ご参加いただけません。

必要事項に洩れがある場合には、受付できない可能性もございますのでご注意ください。

参加者(代表者)には、後日参加証を郵送いたします。(3月初旬ごろ)参加証は当日受付にご提示下さい。

## 「第11回教育フォーラム参加申込書」のご記入について

「第11回教育フォーラム参加申込書」の代表者の欄には、同行予定の教員の方、もしくは同行予定の保護者の方のお名前をご記入ください。

用紙の欄を超える参加希望がある場合には、お手数ですが、参加申込書をコピーして、ご記入ください。  
(ご参加人数は、1校あたり教員・生徒・保護者 各10名程度を目途に)

当フォーラムは、講演およびグループ・ディスカッションの2部制になっており、第2部のみのご参加はできません。

## 「自己紹介シート」のご記入について

第2部グループ・ディスカッションにご出席の方は、同封の「自己紹介シート」をご提出ください。

「自己紹介シート」はお手数ですが、参加人数分をコピーし、お一人につき1枚のご記入をお願いいたします。

ご記入いただいた『自己紹介シート』は、ディスカッションで使用させていただきます。(当日のグループ内で共有予定)

項目はすべてご記入いただき、空欄もしくは「特にない」という内容のものは受付できない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 公開について

経済同友会では、本イベントに関する情報発信のため、本イベントの写真などを本会広報誌に掲載、WEB公開をいたします。また、当日、メディア取材が入る場合もあり、参加者の顔写真の撮影および個別取材のお願いをする可能性もございます。参加者は撮影および公開に同意した上で、本イベントに参加するものとなりますが、同意できない場合には、必ず「参加申込書」の同意欄に「不可」のご記入をお願いいたします。

## 【本件お問い合わせ・提出物送付先】

〒100-0005 千代田区丸の内 1-4-6 日本工業倶楽部別館 5階  
公益社団法人経済同友会 「教育フォーラム」事務局 神山・小倉  
TEL : 03-3211-1271 FAX : 03-3214-6802

## 経済同友会 誕生と 組織の概要

1946年の設立から70年——。経営者が個人として参加し、より良い経済社会の実現や国民生活の充実のために諸課題に取り組む

1951年(昭和26年)に発行した『経済同友会五年史』の「経済同友会の生誕」は、次のような書き出しで始まります。

「戦後の日本財界の担い手として期待されたこの新団体は、各界の注目をひきつつ、昭和21年4月30日午前10時より、東京丸の内日本工業倶楽部で、発起人の大半が出席の上、創立総会を挙行了。この創立総会たるや、誠に生気溼潤たるものがあり、新時代を背負って経済再建に挺身する先駆者の自負と気魄が脈々と躍動する感があった」——。

当時の40代を中心とした若手企業経営者たちが結集して設立された経済同友会の「設立趣意書」(裏表紙全文掲載)では、「日本はいま焦土にひとしい荒廃の中から立ち上ろうとしている」という書き出しで、設立発起人たちの思いが次のように記されています。

「われわれは経済人として新生日本の構築に全力を捧げたい。……今こそ同志相引いて互に鞭ち脳漿をしばって我が国経済の再建に総力を傾注すべき秋ではあるまいか。……われわれは何れの政党からも自由であるが、しかし職能人として政策には関与する。……職能人の経験と知識が国の政策に充分生かされなければ日本経済の秩序ある再建は覚束ないと云える」——。

経済同友会は、設立当初から企業経営者の「個人参加」を特色とする組織です。提言やさまざまな活動の中で展開される議論には、経営者の率直な認識や見解が反映されています。

※原則として会合への代理出席はできません。



## シンボルマーク



### 五連方形ベクトル

#### 正方形

経済同友会に結集する経営者一人ひとりの「志」の高さ、強さを、最もシンプルで端正な形で表現しています。

#### 五連のベクトル

「志」を原点として、「創造」「発信」「行動」「開拓」へと突き進む、その一貫した方向性とエネルギーの高まりを表現しています。

#### 黒色

正方形の黒色と背景の白色のコントラストが、「意志の明快さ」を表現しています。

経済同友会では、1998年度通常総会において、シンボルマークを制定しました。

これは、創立50周年を契機に、経済同友会の原点を見直すとともに、未来への扉を開く経営者一人ひとりの意志を鮮明に打ち立てることを目指したもので、新時代に踏み出す決意を示しています。

## 組織の概要



公益社団法人 経済同友会 / DOYUKAI (Japan Association of Corporate Executives)

設立：昭和21(1946)年4月30日

(社団法人化：昭和28(1953)年9月4日/公益社団法人化：平成22(2010)年4月1日)

会員数：一般会員1,413名(2016年6月17日現在)

事務局：〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-4-6 日本工業倶楽部別館5階

政策調査部 TEL：03-3284-0220 / FAX：03-3212-3774

企画部・総務部 TEL：03-3211-1271 / FAX：03-3213-2946, 03-3214-6802

ホームページ <http://www.doyukai.or.jp>